

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査などを行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査、糞便検査などを行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

(感染症、食中毒等関連検査)

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等 146 検体について関係項目の検査を実施した(表1)。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について、血清型、毒素型を示す(表2)。

表1 健康被害発生に伴う検査

検体の種類		便・吐物	食品	ふきとり	浴槽水	菌株	計
検体数		98	21	15	12		146
検査項目	赤痢菌	10	—	—	—		10
	腸・パチフス菌	7	—	—	—		7
	腸管出血性大腸菌	37	—	—	4		41
	ノロウイルス(IC法)	6	—	—	—		6
	ノロウイルス(PCR等)	26	—	—	—		26
	レジオネラ菌	—	—	—	8		8
	大腸菌群(定量)	—	21	13	—		34
	サルモネラ属菌	64	21	9	—		94
	病原大腸菌	40	—	—	—		40
	腸炎ビブリオ	54	20	9	—		83
黄色ブドウ球菌	54	20	13	—		87	

検査項目	カンピロバクター	38	1	2	—	41
	セレウス菌	54	20	9	—	83
	ウエルシュ菌	53	—	—	—	53
	大腸菌等	—	10	9	—	19

ノロウイルス(PCR等)は保健環境センターで実施した。

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物

発生月	検体	原因病原微生物
4	便	ノロウイルス G I、G II
5	便	腸管出血性大腸菌 O26:H11 (VT1)
8	便	腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1, 2)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1, 2)
		病原性大腸菌 O159:HNT (ST +)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1, 2)
		腸管出血性大腸菌 O157:H7 (VT1, 2)
2	便	ノロウイルス G I
		腸チフス菌

2 食品保健

(1) 食品衛生一斉監視指導等

食品製造事業者等に対し、夏期及び年末の食品衛生一斉監視指導に伴う収去食品、また第23回全国健康福祉祭いしかわ大会（ねんりんピック）衛生対策に基づく収去検体について、細菌検査を実施した（表3）。

表3 食品衛生一斉監視指導等による収去検査

区 分	食 品		ふき取り検査	合 計	
	成分規格	県指導基準			
検 体 数	26 (1)	59 (6)	33	118 (7)	
検 査 項 目	生菌数	6	56 (2)	—	62 (2)
	大腸菌群(定性)	6 (1)	20 (2)	—	26 (3)
	大腸菌群(定量)	6	—	33	39
	大腸菌(定性)	—	48 (2)	—	48 (2)
	サルモネラ属菌	—	54	—	54
	黄色ブドウ球菌	—	54	33	87
	セレウス菌	—	—	33	33
	腸炎ビブリア(定性)	—	1	—	1
腸炎ビブリア(定量)	14	—	—	14	

()数字は不適数

(2) 食鳥処理場一斉点検

管内の食鳥処理場1施設について、食鳥処理の工程ごとのふき採り物等21検体について細菌検査を実施した（表4）。

表4 食鳥処理場一斉点検

区 分	拭取り	冷却水	合計	
検 体 数	20(2)	1	21(2)	
検 査 項 目	生菌数	20	1	21
	大腸菌群(定量)	20	1	21
	黄色ブドウ球菌	20	1	21
	サルモネラ	20	1	21
	カンピロバクター	20(2)	1	21(2)

() 数字は検出件数

3 水質検査

第23回全国健康福祉祭いしかわ大会（ねんりんピック）衛生対策に基づいて浴場水の細菌検査を行った。また、海水浴場水について、管内4ヶ所の海水浴場で開設前と開設中の年2回採水し、水質検査を実施した（表5）。

表5 水質検査

区 分	ねんりんピック	海水浴場水	
検 体 数	1	28	
検 査 項 目	レジオネラ菌	1	—
	pH	—	28
	COD	—	28
	糞便性大腸菌群数	—	28
	腸管出血性大腸菌O157	—	6

4 臨床検査

(1) 梯川流域住民健康調査

心電図検査を4件実施した。

(2) HIV抗体検査

免疫クロマトグラフィー法によるHIV迅速検査を154件実施した。